

議事録

名 称	第4回 目黒区みどりの基本計画改定及び目黒区生物多様性地域戦略改定懇話会
日 時	令和7年8月6日（水）18:00～20:10
場 所	目黒区総合庁舎本館 地下1階 第18・19会議室
出席者	東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科 助教 栗田和弥 氏
	東京大学総合研究博物館研究事業協力者 須田真一 氏
	目黒区農業振興運営協議会会長 杉村昇一 氏
	NPO 法人 菅刈ネット 21 理事長 坂本尚史 氏
	区民公募 石原令大 氏
	区民公募 中川求美 氏
	区民公募 吉川智美 氏
事務局	目黒区都市整備部みどり土木政策課 清水課長、三国係長、小路係長、角田氏、鶴田氏
	株式会社ポリテック・エイディディ 伴、才木、中村(裕)、前田(記)
会議資料	・次第 ・(素案) 目黒区みどりの基本計画および生物多様性地域戦略〔2026年改定版〕(案) ・参考資料：自然通信日より ・アンケート用紙
1. 議事 (1) 素案について ・第1章第1項の「計画改定の趣旨」(2p)について、現行の生物多様性地域戦略の内容をブラッシュアップしてより良いものを作成するというのが本来の改定の趣旨と考えるが、一から作り直しているような構成に見受けられる。まず現行の生物多様性地域戦略がどのような内容で、今までにどのような成果が得られたかを明記し、そのうえで改定計画では何を変更・追加していくかを考えていくべき。目黒区は生物多様性地域戦略に限らず今まで優れた計画を作ってきたにもかかわらず、それが改定計画に反映されていないのは何故か。(委員) →第2章で今までの取組や現行の地域戦略の振り返りを記載しているが、そちらを第1章の冒頭で載せるべき、という理解でよいのか。(事務局) →第1章は物事の基礎を述べるところであるため、今までの計画で何をしてきたのかという内容は最初に述べるべきと考える。現行の地域戦略は目黒区らしさがあるが、今回の素案では目黒区らしさが薄れている。みどりの基本計画と似たような作り方に見えるが、雛形に文章を当てはめて作っていただけの良いわけではなく、地域戦略のような作り方をしなければ「目黒区らしさ」を出すことはできない。現行の地域戦略は試行錯誤を繰り返しながら目黒区らしさを前面に押し出すことができていたが今回の素案ではそれができていないと思う。(委員) ・現行の地域戦略の期間は2020～2032年と書いてあり、まだ続いている計画かと思うが、現行の地域戦略について、改定する前段階としての報告書のようなものを作成する予定はあるか。(委員) →地域戦略の短期目標は2020で終了していて、目標は達成できていない部分もある。結果をまとめた報告書は作成していないが、自然通信員にはA4紙1枚にまとめたものを中間の評価としてお配りしている。これまでの目標達成にむけた取組状況を踏まえ、どのように改善していくのかを改定の趣旨で述べていく必要があると考えている。(事務局) →短期目標2020の報告はいつでも見られる状態であるか。それらの報告をふまえて今後の改定に反映していく必要があると考える。(委員) ・第5章第1項の基本理念(89p)について、現行の地域戦略の「野鳥のすめるまち」という文言がなくなっていることに対しても今までの地域戦略が反映されていないと感じる。目黒区は「野鳥」が重要なポイントで、地域戦略を策定して目標に向けて取組を進めてきたところ	

名 称	第4回 目黒区みどりの基本計画改定及び目黒区生物多様性地域戦略改定懇話会
	に目黒区らしさがあると思う。仮案の基本理念は目黒区に限らずどこの地域でも使えるようなものとなっていて、非常に問題が大きいと考えている。現行の地域戦略がどのように作成されたかを踏まえた上で、基本理念からいま一度考えなおしていただきたい。(委員) →前回からブラッシュアップしきれていない状態でお出ししている状態であるが、今の地域戦略を評価いただいていることは理解しており、その要素は改定後の計画にタイトルやサブタイトル、内容にしっかりと反映したいと考えている。(事務局) →計画が続いていることがイメージできるようなタイトルがよい。「もっと野鳥のすめるまちづくり」をタイトル案として提案する。(委員) →できるだけひらがなを使い、子どもでも読みやすく親しみやすいようなタイトルにしたいと思っている。区職員のなかでも「野鳥のすめるまちづくり」という言葉、理念は引き継いでいきたいと考えている。(事務局) →「野鳥のすめるまちづくり」は重要なキーワードであるため、そのままの言葉が残らずとも、ニュアンスが伝わるようにしていただきたい。(委員) ・みどりの将来像(91, 92p)について、どんなまちになるのか、どこでどんな取組がされるのか伝わってきておらず、「こんな町だから目黒区は誇れる」ということがはっきり表れるとよい。課題のまとめ(85p)でネイチャーポジティブなど新しい言葉を使っているが、なぜ目黒区でネイチャーポジティブを目指すのか、具体的にどんな取組をするのか伝わらず、唐突感がある。85p から 93p までの流れ、つながりがよく理解できない。(委員) →新しい言葉でも前の計画の内容に対応するような項目があれば、その関連性を示し、新しく出てくる概念や言葉についても今までの取組とのつながりなどを精査するとよい。(委員) ・現行の地域戦略が優れているため、極端な言い方をすると、現行の地域戦略に少し内容を追加すれば現代でも通用するものになるのではないかと。時代に合ったような言い回しに変更するなど、考え方の方向性としては区として変わっていないと思うので、地域戦略を重視する形で完成形ができるとよい。(委員) →地域戦略のいいところは残していきたいと考えている。(事務局) ・野鳥やほかの野生生物による農地の被害も勘案して屋敷林農地の保全に関する内容もしっかりと充実させてほしい。(委員) ・地域戦略の目標達成状況の分析は第2章(48p)に詳しい記載があるが、そこだけではなく、計画の中のあちこちにちりばめて記載するのもよいのではないかと。また、イラストなども著作権の問題もあると思うが、活用できるとよい。区民に毎日のように見てもらい、現行の「一人ひとりのチェックリスト」の項目を改定したものを載せるなどして使ってもらえる計画書ができるとよい。(委員) →イラストの著作権は目黒区にあるため、活用していきたいと考えている。施策の内容(97p以降)で取組主体を示す星取表のようなものを載せているが、区民が取組む内容については、わかりやすく取りまとめ、一人ひとりのチェックリストとして載せたいと考えている。(事務局) ・第2章生物多様性の課題(48p)に地域戦略の達成状況が記載されているが、その結果を踏まえてどうするかが読み取れない。未達成の目標についてはさらに意欲的に取り組むとか、目標値が適切でなかったから改定するとか、具体的な方針が見えてこない。高すぎず低すぎない目標を立てて区全体で取り組もう、という内容があるのが地域戦略の肝だと思う。パーツはよくできているところもあるが、そのパーツがうまくつながっていない。例えばフラグシップ種がどのくらい増減したか、どこに分布しているかという情報で区域全体のみどりや生物多様性のあり方が把握できる。目黒区の面積と都市化率だと、哺乳類は少ないので、鳥類が生態系ピラミッドの一番上にくる重要な種になると思う。鳥だけがいればよいということではなく、鳥がたくさんいるということは、その鳥の生息を支える虫や虫の餌となる植物など、生態系が健全に成り立っているということなので、良い指標、アンブレラ種になると思う。具体的に区として何をするのかが読み取れないので、改定計画を作った後にアクションプランを作成するのはどうか。アクションプランを作らないのであれば、改定計画の本編に

名 称	第4回 目黒区みどりの基本計画改定及び目黒区生物多様性地域戦略改定懇話会
しっかり記載するべき。(委員) →生物多様性の課題(48p)では154種の指標在来生物種の分布率を示しているが、さらにその中でフラグシップ種となるような代表的なものはあるか(委員) →この種数は他の区と比較すると多いのか。目黒区が他の区と比べて鳥が多いのであればそれを担ぎ上げて目標としてストーリーが作りやすいのではないか。(委員) →世田谷区や練馬区は農地や樹林地、多摩川を含むので、それと比較すると目黒区は見劣りする。一概に他の区と比較するのが良いことだとは言えない。(委員) →空き家に害獣が入るのが問題になっている。(委員) →アクションプランについて、今回改定する計画においてアクションプラン的なものを網羅するのは難しく、今回の改定計画の中で、ある程度の方向性は示していくべきと考えている。手に取った区民が何をやればいいのかわかりやすくするようなチェックリストを作成することや公園の整備計画的なものを計画の下にぶら下がるような形で作っていくことを検討している。(事務局) →計画はあくまでも基本的な方針や指針を示すもので、それに基づいて具体的な施策や行動を立てるのがアクションプランである。アクションプランとそれに基づく施策の違いは、アクションプランは戦略的(計画的かつ順応的)に立てるところにある。アクションプランで実際に行動してみて、難しければすぐに軌道修正を行うことが可能である。東京都の地域戦略のアクションプランも同様で、年に1回会議をしていて、よりいい方法を模索して改善しながら続けていける取組を継続している。目黒区も計画にぶら下げて作るのであればそのようにアクションプランとして作るとよい。本編にあまり具体的なことを書くと、実現可否が不確実で計画の具体性を担保できなくなるので、アクションプランに書くのが良いかと思う。(委員) →本計画は方針的な位置づけと捉えているため、委員の述べたような取りまとめ方とし、アクションプラン等については取組の中で詳細を検討していきたい。(事務局) ・ 現行の地域戦略はページ数が少ない割には内容が濃く、区民が具体的に行動できること、計画期間が終わるときの未来のまちの姿などがしっかりと書かれている。そういったことも改定計画に盛り込んでいただけるとよい。(委員) ・ 前回どのように地域戦略を作ったのか、どのような考えをもとに組み立ててきたのかが検証されていないことが、つながりが見えない原因となっていると考える。そのため、現行の地域戦略の勉強会、座談会的なものを現行の地域戦略を作成した方を交えて、次回の懇話会までに開催できると良いと思う。できれば菅刈公園のような優れた公園があるので、公園関係者に案内してもらい、どんな活動がされているのか、目黒区としてどのような意図でその公園をつくったのかなどを勉強できると改定計画に具体性を持たせることができると思う。(委員) 以 上	